

# ごあいさつ



経営管理委員会会長

港 義弘



代表理事理事長

森末 敬三

皆さまには、平素より香川県信用農業協同組合連合会ならびにJAバンク香川をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

本年も当会をより深くご理解いただくため、当会の経営方針、業務内容、最新の業績等についてまとめた「JAバンク香川信連 DISCLOSURE 2024」を作成いたしました。ぜひ、ご一読いただき、当会に対するご理解をより深めていただければ幸いです。

当会は、昭和23年8月の創立以来、香川県農業の発展と農家経済の向上はもとより、地域金融機関として地域経済・社会の繁栄に貢献する金融機関を目指して業務を展開してまいりました。これもひとえに皆様のご愛顧、ご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

さて、令和5年度のわが国経済は、コロナ禍の3年間を乗り越え、各種政策等の効果もあり景気は改善しつつあります。先行きについては、ロシアのウクライナ侵攻の長期化など地政学リスクの高まりにより、わが国の景気を下押しするリスクとなっています。さらに、日銀によるマイナス金利政策解除によりわが国の金融政策は正常化に向けて大きく転換することになりましたが、日米の金融政策の開きにより依然として先行き不透明な状況となっています。また、JA自己改革については、農業・JAバンクを取り巻く情勢が厳しいなかで、10年後のめざす姿（持続可能な農業の実現、豊かでくらしやすい地域共生社会の実現、協同組合としての役割発揮）の実現に向けて、継続して「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の3つの基本目標への取組みを着実に実践し、不断の自己改革に取り組んでいくこととしています。一方、信用事業を取り巻く環境については、前述の経済情勢等に加え、人口減少・少子高齢化の進展等による事業基盤の縮小、さらには世界規模での社会・環境問題への取組み、物価高騰、金融デジタル化の進展など複雑多様化しています。

このようななか、当会は会員の負託に応える持続可能な経営基盤の確立とJAバンクシステムの充実を最優先課題として取り組み、会員への還元機能の充実、安定的・継続的収益の確保ならびに県域機能の充実とガバナンスを中心とした業務運営体制の強化に取り組んでいます。

また、令和6年度は、10年後の将来像を見据えたうえで、向こう3年間において我々が取り組むべき「JAバンク香川中期戦略(2022～2024年度)」の最終年度を迎え、多様化する「農業」・「くらし」・「地域」の持続性を確保し、組合員・利用者目線で問題解決に取り組むため、JAバンクならではの総合事業を活かした金融仲介機能をそれぞれの領域で発揮することで価値提供を進めてまいります。

今後とも当会は地域金融機関としての社会的役割と責任を充分認識したうえで、経営資源の有効な活用および適切な配分を行い、JAバンク機能の一層の発揮に努める所存でございますので、更なるご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年7月

香川県信用農業協同組合連合会

経営管理委員会会長 港 義弘  
代表理事理事長 森末 敬三